

THE MAGAZINE FOR DINERS CLUB PREMIUM CARD MEMBERS

VALUES

2014 Summer

|ヴァリュー



Toast, The Wine Lovers
ワインに魅せられた人々

ARRIVAL OF THE FITTEST.



アクアタイマー・クロノグラフ
“ガラバゴス・アイランド” Ref. 3795：ガラバゴス諸島では、適応能力に長けた種だけが過酷な環境の中で生き残ります。マットブラックのラバーコーティングがガラバゴス諸島の火山岩を彷彿とさせるこのタイムピースは、その適性を持ち合わせているといえるでしょう。裏蓋にエングレーヴィングされたガラバゴス諸島のイグアナもまた、同じように自然淘汰を受け、進化してきた種のひとつです。この時計もイグアナも

共に、それぞれの環境に適応しながら進化を遂げたからこそ、今の姿があるのです。
この特別モデルの売り上げは同諸島の保護活動に活かされています。 **男のために設計された時計、IWC。**

機械式クロノグラフ・ムーブメント | 自動巻き | IWC自社製
キャリバー 89365 | パワーリザーブ(完全に巻き上げられた場合)：
68時間 | IWCセーフダイブ・システム付き機械式回転式アウトター/
インナーベゼル | 夜光塗料が塗布された針、文字盤、および回転式



インナーベゼル | ねじ込み式リューズ | サファイアガラス |
30気圧防水 | プレスレットクイック交換システム |
ケース厚さ 17mm | 直径 44mm

IWC Schaffhausen, Switzerland. iwc.com/ja Contact info : 03-3288-6359
IWC Boutique Ginza 0120-26-1868

【愛知】TANAKA ウォッチギャラリー 久屋大通店 052-951-1900 【宮城】HF-AGE 仙台店 022-711-7271 【東京】BEST 新宿本店 03-5363-6900 ISHIDA 表参道 03-5785-3600 天宮堂 銀座本店 03-3562-0022 伊勢丹新宿店 本館4階 ジュエリー&ウォッチ 03-3352-1111
日本橋三越本店 03-3274-8480 COMMON TIME 渋谷 03-3780-5650 日本橋タカシマヤ 03-3211-4111 【京都】oomiya 京都店 075-229-6689 京都タカシマヤ 075-221-8811 【大阪】貴人館 06-6636-6630 oomiya 大阪・心斎橋店 06-6251-0077
【兵庫】カミネ 元町店 078-327-3363 【岡山】トミヤメカミュージアム店 066-226-1038 アイジュエリーウマキ 岡山店 086-244-5888 【香川】アイアイ・イズス 087-864-5225 上記以外の正規取扱店はIWCホームページをご覧ください。

IWC
SCHAFFHAUSEN

ガラパゴスの未来を切り開く

IWCと

アクアタイマー・クロノグラフ

ドイツと国境を接するスイスの小さな街・シャフハウゼンの名を世に知らしめたのは、ウォッチメーカー、IWCだ。スイス製の優れた機械式時計をアメリカへと輸出するために、アメリカ人のフロレンタイン・アリオスト・ジョーンズが1868年に同地に創業した。多くの同業他社ではスイス人やフランス人が創業者なのにに対し、IWCはアメリカ人であること、また、シャフハウゼンも多くのウォッチメーカーが本拠を置く時計づくりの街ではないことなどからも、IWCは他社とは異なるDNAを備えたブランドだということがわかる。



右：スイスのシャフハウゼンにあるIWCの本社。
左：創業者のアメリカ人、フロレンタイン・アリオスト・ジョーンズ。

正確に時を刻む機構、美しいデザインや機能性に対して独自の技術を極めるだけでなく、それとは離れた様々なプロジェクトに積極的に関わることで、IWCは自らの時計づくりにより大きなダイナ

ミズムを与えている。チャールズ・ダーウィン財団とのパートナーシップが一例で、アクアタイマー・クロノグラフ特別モデルの売り上げの一部を同財団に寄付してガラパゴスの環境保全に一役買いつつ、海中の生態系を調査するダイバーの安全を重視した画期的な時計機構を開発することにも成功している。2014年は、ダイビング用の分厚い手袋でも操作しやすいよう、セーフダイブ・システム付きの回転式アウトター/インナーベゼルを誕生させた。

世界で起こる様々な事象に関心を寄せ、それを自らのエネルギーへと変えることのできるIWC。そのチャレンジ精神が同社を今の時計界で輝く存在にしていることは間違いないだろう。



アクアタイマー・クロノグラフ
“エクスペディション・
チャールズ・ダーウィン”

ケース素材にブロンズを初採用。チャールズ・ダーウィンがガラパゴスへ旅をしたビーグル号の船体素材にオマージュを寄せている。裏蓋にはダーウィンの肖像画をエングレイヴ。自動巻き、直径44mm、30気圧防水、1,045,000円（税抜）



アクアタイマー・
クロノグラフ“50イヤーズ・
サイエンス・フォー・
ガラパゴス”

世界500本限定のチャールズ・ダーウィン研究所設立50周年記念モデル。ブルーのインデックスは、アオアシカツオドリの足の色をイメージ。ラバーコーティングしたマットブラックのSSケース、自動巻き、直径44mm、30気圧防水、1,055,000円（税抜）

Information

IWC Exclusive Dinner with Swen Lorenz

アクアタイマーとガラパゴスの世界へご招待

チャールズ・ダーウィン財団のCEO、スヴェン・ロレンツ氏の来日を記念したイベントが、IWCの主催で7月25日、26日の2日間にわたって開催されます。この特別なイベントへのご招待情報がとじ込みハガキに記載されています。ふるってご応募ください。



左：スヴェン・ロレンツ氏。中と右：「レストラン アイ」のオーナーシェフ、松嶋啓介氏の独創性のある料理も楽しみのひとつ。



上段右：海洋保護区の様々なデータを取るチャールズ・ダーウィン研究所の研究者。左：グーグルのストリートビューカメラも研究に役買っている。中段右：昆虫のサンプルを採集する様子。左：研究所内で訓練を受ける若手研究者たち。下段右：CEOのスヴェン・ロレンツ氏。左：ゾウガメに電子製タグを取り付けてその移動ルートを探る。



Charles Darwin Foundation & IWC Schaffhausen



「IWCは、アクアタイマー・クロノグラフを通じて、世界中に我々の活動を広めてくれています。我々が大きな成功を取るためにIWCのサポートは欠かせません」

ロレンツ氏は、近く来日し、IWCを通じてガラパゴスの最新情報や同財団の取り組みを伝える予定だ。ダーウィンも目にした愛すべき自然と命の様子が日本にも伝わるようにと。

滅の危機に瀕するゾウガメを研究所内で繁殖して飼育し、自然に戻すなど、多くの活動で成果を上げている。

また、近年では周辺の海洋保護区にやってくるジンベイザメも研究の対象だ。世界最大の魚・ジンベイザメは、プランクトンが豊富なこの海に毎年やってくるが、なぜかすべてメスだという。しかも、彼らがなぜここに来て、そしてどこに行くのか、また、オスはどうしているのか、は謎のままだ。同研究所は2011年からガラパゴス国立公園サービスと共同で、GPS機能のついたタグをジンベイザメに取り付け、その行動範囲や習性を分析している。ガラパゴスが彼らにとって、永遠の楽園であり続けるための謎が近い将来解き明かされるかもしれない。

スイスのウォッチメーカー、IWCは、同財団の挑戦に理解を示す企業の一つ。09年に正式なパートナーシップ契約を結び、同社の代表的なラインの一つ、アクアタイマーで特別モデルをつくり、売り上げの一部を寄付している。若き同財団のCEO、スヴェン・ロレンツ氏は語る。



右から時計回りに：真っ青な足と白い身体のコントラストが美しいアオアシカツオドリ。行水中のゾウガメ。身体を水につけることで、寄生虫を駆除する。年齢は推定150歳とも。ダーウィンがいた頃のゾウガメがまだ生きているかもしれない。フラミンゴも豊かなガラパゴスの海の恩恵を受ける。海中では愛らしいアシカが。メスのジンベイザメのほとんどは妊娠中だという。



ガラパゴス——地球最後の楽園

エクアドルの首都・キトから空路で約2時間。赤道直下の太平洋に一つ、二つと浮かぶ島が見えてくる。チャールズ・ダーウィンが「進化の実験室」と呼んだ、ガラパゴス諸島だ。

所々に自生するウチワサボテン以外、降り立った島には何も無い。乾いた地に太陽が強い光を射す。小さな空港の入島審査後のバスポートには、愛らしいゾウガメのスタンプが押されていた。その直後から、旅人は珍しい経験をするようになる。まずはスツーカーもろとも、老いも若きも、みんな平等に古びたバスに乗りこむ。そして揺られること10分あまりの船着き場でも、全員と全荷物がひとつのボートに乗せられて対岸の島まで否応なく運ばれる。ここでは「プライオリティ」などという概念はない。あるとすれば、雄大な自然とそこで暮らす希少な動物たちなのであって、人間はあくまでも一歩下がってそれらに敬意を払う存在だ。

日本でしか使えない携帯電話をガラケー（ガラパゴス携帯電話の略）と呼ぶことからわかるように、島には固有の動物がたくさんいるが、その中のいくつかは絶滅の危機に晒されている。チャールズ・ダーウィン財団は、そんな動物や自然を守るため、ダーウィンの著書『種の起源』発刊100周年の1959年に、ユネスコの支援を受けて設立された。64年には、ガラパゴスのサンタクルス島でチャールズ・ダーウィン研究所が運営を開始、ガラパゴスの陸上や海洋の動物の生態系について日々研究を重ねている。そして、絶



絶滅の危機にあったガラパゴス・リクイグアナも、研究所の努力により数が増えつつある。



Charles Darwin Foundation & IWC Schaffhausen

チャールズ・ダーウィンも見た愛すべき自然と命

ガラパゴス

「進化の実験室」を次世代へ

1835年、チャールズ・ダーウィンがガラパゴス諸島にたどり着いた。彼はそこで、後に「進化論」に至る大いなる発見をする。それから170年以上を経た現在、彼の名を冠する財団によってガラパゴスの生態系を保全するプロジェクトが進行中だ。そしてそんな彼らの挑戦を、スイスのウォッチメーカーのIWCがサポートしている。

写真・ジョナサン グリーン 文・松本美智子
Photographs by Jonathan R. Green Text by Michiko Matsumoto